広報かしわ

昭和36年8月6日

NO. 64

臨時特集号

本号は、柏市の小中学生の社会科の参考資料として、特に編集したものです。夏休みの期間を利用して、私達の郷土柏の姿を、振り返り、勉強の手引として、活用して下さい。

柏市役所　企画課　企画広報係

柏市の生い立ち

この地方は、古代には下総国（しもふさのくに）と呼ばれ、水に恵まれた風光の美しさによつて、早くから開発されていたようです。

昭和２７年に市内戸張地区から彌生式住居跡が発掘され、復原されていますが、これを見ても、古代から人が住みついていたことがわかります。又約1,２００年前に造られたといわれる布施弁財天（ふせべんざいてん）や若柴観音（わかしばかんのん）の建物を見ると、文化の程度もかなり高かつたことがしのばれます。

中世に入ると武士が勢いを振い各地に城を築いて激しい勢力争いをくりひろげました。戸張城跡、布施古城跡、根木内城跡、酒井根古戦場跡、船戸移封司所跡など、当時の戦乱を物語つています。これというのも、この地方の生活が豊かであり、これを治めるために各氏族が互いに勢力を競い合つたからでしよう。

徳川時代になると、幕府がこのあたり一帯を小金牧（こがねまき）として数千頭の馬を放牧しました。北小金、馬橋、馬込沢、大木戸などの地名はこのゆかりであり、今でも市内各所に牧場の土堤を散見出来ます。この頃、将軍は度々この附近に鹿狩りに来ました。当時の記録にはじめて柏村の名が現われて来ます。幕末になるに従い柏村附近は、水戸街道（今の旧６号国道）を中心として開けて来ました。今に残る今谷上町附近の立派な松並木は、水戸の殿様が参勤交替の途中で植えられたものです。

明治に入り、牧場は開墾されて農地となりました。明治２２年に、はじめて町村制がしかれ、千代田村、豊四季村、十余二村、土村、富勢村、田中村などが生れました。

明治２９年に鉄道常磐線が通じ、明治４４年に東武鉄道野田線、大正１２年に船橋線が通ずるに及んで、柏地方は交通の要所もなりました。大正１３年に県立中学校（現在の東葛飾高等学校）が出来、大正１５年には千代田村、豊四季村が合併して柏町となりました。

昭和に入り、柏町は、東葛飾郡の中心的な位置によつて、段々、商業が発展して来ましたが、吾が国が軍事国家に移ると共に、軍都的な色を濃くし、東武１４、８８、１０２、１０５部隊と、飛行場や陸軍病院が出来、軍需工場として日立製作所、東京機器、日本光学などが建設されて、一躍発展を見るに至りました。然し終戦によつて、これらの施設は全部撤去され、軍部に換つて、東京都の衛星都市として再出発したのです。

昭和２４年に常磐線の電化がなり、昭和２８年に南柏駅が開設され、昭和２９年に柏町、田中村、土村及び富勢村、小金町の一部と合併して、現在の柏市となりました。以来、光ケ丘をはじめとする集団住宅地の出現、駅前防火帯建築の完成、柏駅西口の開設、上水道の布設、利根提外地の開拓、新国道の完成、都市計画街路の整備区画整理の推進、そのほか、都市として、脚光を浴びて居ります。

人口の移り変り

柏市の人口は、昭和３０年と、昭和３５年の国勢調査を比較すると１８,７２５人も増加し、その増加率は1,４,１５８で全国の５５６市中第６位を占めています。この増加率は千葉県中では第１位であり、発展速度の急なことがわかります。これは東京都の影響を受けて、集団的な社会増加があつたためで、今後も活発な企業進出や、宅地造成によつて、増勢を続けるものと見られます。

	昭和10年	15年	20年	25年	29年	30年	35年
柏　市	(20,214)	(21,786)	(31,983)	(38,916)	(43,333)	45,020	63,745
旧柏町	8,650	9,669	16,134	21,008	24,806	—	—
旧田中村	5,350	5,553	7,016	7,997	7,964	—	—
旧土村	3,601	3,784	4,883	5,100	5,396	—	—
旧富勢村	2,277	2,370	3,357	4,108	4,436	—	—
旧小金町	336	410	593	630	931	—	—
	10.10.1	15.10.1	20.10.1	25.10.1	29.9.1	30.10.1	35.10.1
備　考	国勢調査	国勢調査	人口調査	国勢調査	市制施行	国勢調査	国勢調査

位置と地勢

柏市は、東径およそ１４０.０２度、北緯３５.４７度で、千葉県西北部の中央に位し、千葉県庁からは約４２Km、東京都との最短距離は１４Km、都心まで僅か４０～５０分以内の近距離です。面積は約７３Km²で、東西１０.５Km、南北１５Km、周囲６７.５Kmあり、土地は、およむね平坦で、海抜最高3.15mに過ぎません。東は手賀沼に接し、北は利根川を境として茨城県に接し、南西は、野田、流山、松戸に隣接しています。地質は大部分第四期洪積層に属し、広潤肥沃な田畑で新鮮な野菜を東京の台所に供給しています。尚、田は１３.９７Km²、畑２１.９５Km²、宅地4.９２Km²、山林１６.５４Km²、其の他１５.７２Km²と分れ、これからの開発の余地を充分残しています。

産業のすがた

商　業

本市の商店を経営規模別に見ると、従業員千人以下の事業所が１５３９、５人から９人までが７０５、１０人から１９人が３９３、２０人以上が１１３、合計2,７５０あります。市民生活は年々向上され、生活様式も改善されるに従い、消費購買力は年と共に増加して、商店街は近隣市町村随一のにぎわいを見せています。特に市街地中心部は、近代的な防火建築となり、アーケードによつて結ばれた横のデパートと化し、近代的経営を積極的に採り入れて、注目を浴びています。

工　業

柏が市になるまでは、軍需工業以外に見るべきものがありませんでしたが、昭和３０年に企業誘致条例を設けて積極的に誘致してから、順次工業化が進み、現在工場数１１９、労務者数1,６００人、年間出荷額約１０億円に達しました。然し地理的条件から大企業は存在せず、中小企業が主なものです。尚、進出計画中のものは、約１３社、１１万坪があり、従業員も数千人の雇用が見込まれ、やがて柏市の産業構造も塗りかえられることでしよう。

農　業

本市の農業は近効農業地帯という特色を持つています。戦後の食糧事情のため、米麦を主とした主穀経営が重きをなし、利根川沿岸を開拓して１３００ヘクタールの美田が作られましたが、新農村建設事業の推進によつて、機械化の普及や、蓄産の導入、換金作物の増加などを計り、多角経営への転換を進めています。このため、本市の農業収入は飛躍的に増加し、主生産物も高級疏菜に移りつゝあり、豊かな営農への道を歩んでいます。尚農家数は2,８５８戸で、0.４９ヘクタール から1.４８７ヘクタールまでの所有者が６５%を占めています。

市政のあゆみ

予　算

（単位千円）

年　度	一般会計	特別会計	合　計	備　考
昭和３０年	142,150	30,054	172,204	決算額
〃 ３１〃	177,971	46,810	224,781	〃
〃 ３２〃	212,484	55,599	268,083	〃
〃 ３３〃	262,335	84,879	347,214	〃
〃 ３４〃	288,069	92,589	380,658	〃
〃 ３５〃	317,014	87,041	404,055	決算見込額
〃 ３６〃	437,261	150,853	588,114	３６.７月現在

教　育

市内の学校は、小学校１０校、中学校５校、合計１５校であり、このうち、４小学校１中学校は市制施行後に建てられたものです。加えて、よりよい教育の施設を作るため、柏一小その他の７校に増改築を行い、内容の充実を計り、現在では柏中の鉄筋校舎や、田中中の新築移転等の工事を推進しています。尚市制以後の教育予算は約３億円に達しています。

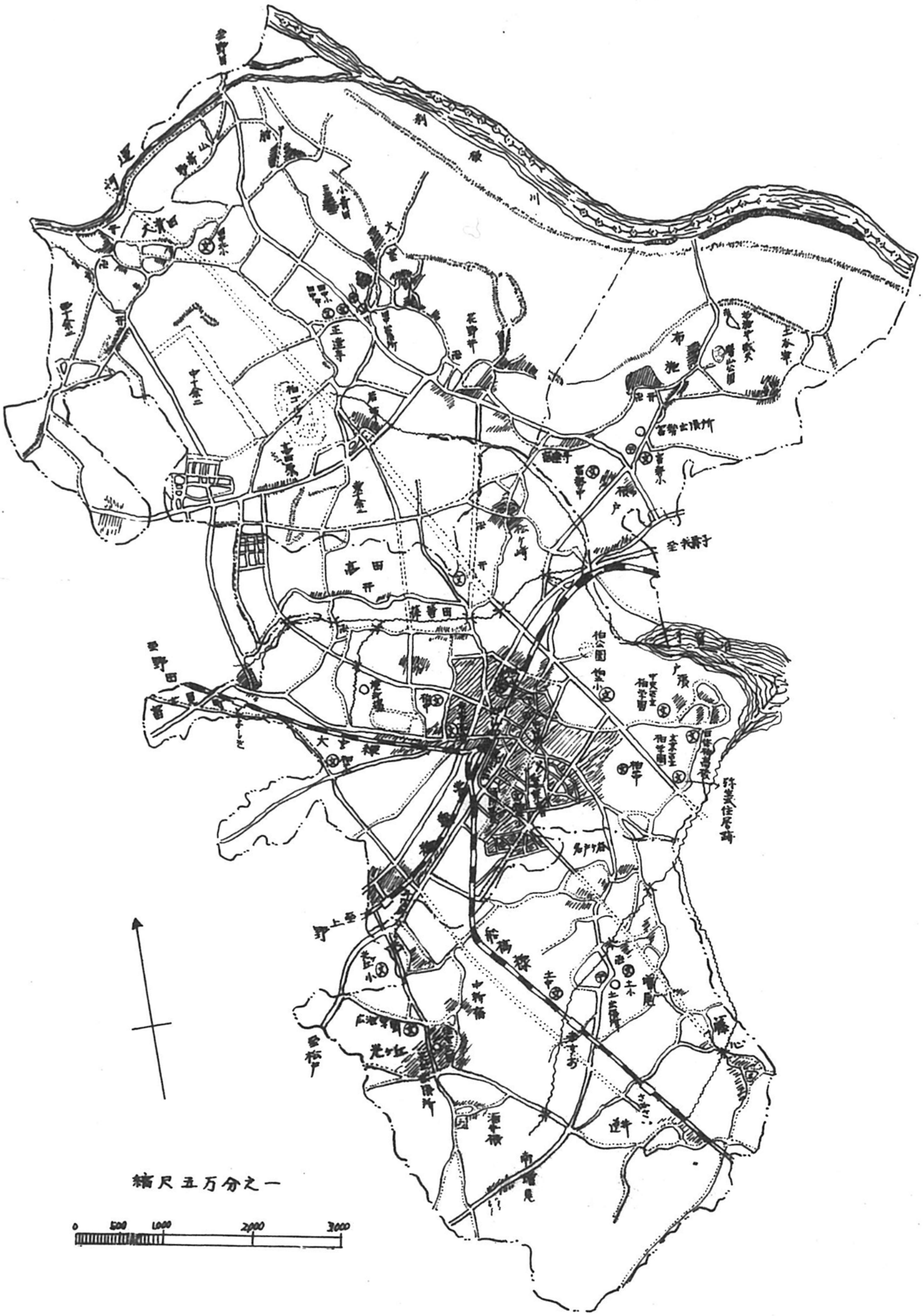
土　木

昭和３０年以降に着工された都市計画街路１４路線は既に大部分完成を見、産業道路も約３０路線が出来上つて、柏市の道路網は面目を一新しました。現在は鋭意市道の舗装工事を進め、既に各路線9,０００ｍを完成、更に周辺部への延長を実施して居ります。

道路の新設改良には現在まで約２億円以上の資金を用ヒましたが道路事業と併せて区画整理事業を進め、南柏地区４万２千坪の完成柏駅西口地区１３万２千坪は施行中であり、土地の効率的利用と都市的態容の造成に努めています。

尚上下水道は市民生活に直接影響する重要な施設ですから約１億８千万円で、初めて市営水道を布設し５万ｍの配管工事を終り１万６千人以上の給水を行つていると共に下水道事業を５ヶ年計画で、約２億７千万円の工費で着工しております。

其の他

柏市防火建築工事着工	昭和３０年
柏駅西口の開設	昭和３１年
法務局柏出張所の誘致	昭和３３年
有線放送電話開通	昭和３３年
常設消防諸施設完成	昭和３４年
日体柏高校誘致	昭和３５年
塵芥焼却場建設	昭和３６年
中央公民館着工	昭和３６年

柏市略圖